

朝日新聞 2011(平成23)年1月13日(木) 佐賀版 ぶらりミュージアム

13日 木曜日 13版 ▲ 第2佐賀 佐賀 26



県立博物館

佐賀藩10代藩主鍋島直正(蘭叟/1814~71)は、大規模な行財政改革を断行し、藩校教育を推進するとともに、大砲・蒸気船製造や西洋医学研究など当時の日本で最先端といわれる佐賀藩の近代化を推進して、

鍋島直正書「先憂後樂」

政治への姿勢を示す代表作

藩としても、個人としても幕末維新期に大きな存在感を見せた。

久米邦武著『鍋島直正公伝』によれば、直正は書を幕府右筆の男谷燕斎(1777~1840)に学び、「九歳の時の揮毫を見るに、ほとんど成人の筆の如く」であったとされている。中国風の書体で洗練され、年を追うごとに豪放で枯れた書になすようになった。

この書は、北宋の政治家・范仲淹(989~1052)が『岳陽楼記』の中で述べた政治家の心構え「先天下之憂而憂、後天下之樂而樂」(天下の憂いに先んじて憂い、天下の楽しみに後れて楽しむ)を書したもので、直正壮年期の書の代表作であるとともに、彼の政に対する姿勢を示している。

(県立博物館 学芸員 浦川和也)



23 佐賀市城内1の15の24
 分。電話0952・15の24
 物館前下車、徒歩1
 分。開館は午前9時半
 午後6時。休館日は月
 曜。

安政3(1856)年2月
 /掛幅1幅/170.5㌢×
 88.7㌢(本紙)/博物館
 テーマ展示VI・佐賀偉人
 伝刊行記念展示「鍋島直
 正の書」で公開中(2月
 20日まで)。今月16日
 (日)午後2時から、
 佐賀城本丸歴史館副館長
 の古川英文さんによるギ
 ャラリートークもある。